

莊村清志 & マルク・グローウェルス デュオリサイタル

1部 (ギターソロ)

モーツァルトの「魔笛」の主題による変奏曲……………ソル
アンダルーサ……………グラナドス
グラナダ……………アルベニス
入江のざわめき……………アルベニス
アルハンブラの思い出……………タルレガ
組曲「スペインの城」より……………トローバ
トリーハ トゥレガーノ セゴビアの城

2部 (デュオ)

「スペイン民謡集」より……………ロルカ
ハエンのムーア娘達 カフェ・デ・チニータス
18世紀のセビリャーナス
オブリビオン……………ピアソラ
「タンゴの歴史」より……………ピアソラ
ボーデル1900 ナイトクラブ1960
ブエノスアイレスの雲……………ブホール
カルメン幻想曲……………ボルヌ

夏

2016
四季コンサート

2016年6月2日(木) 18:00開場 18:45開演
会場:アクトシティ浜松中ホール
主催:浜松音楽友の会

プロフィール

莊村清志 (ギター)

9歳よりギターを始める。1963年に巨匠イエベスに認められ、翌年スペインで師事。67年と68年にはヨーロッパ各地でリサイタルを行ない、69年の日本デビューで、「テクニック、音楽性ともに第一人者」との高い評価を得た。71年には北米で28に及ぶ公演を行い、国際的評価を不動のものにした。74年にはNHK教育テレビ「ギターを弾こう」に講師として出演し、一躍全国にその名と実力が知られることになった。

日本人作曲家にも多数作品を委嘱、新作の初演にも意欲的である。とくに武満徹には74年に「フォリオス」、93年に「エキノクス」(初演94年)を委嘱し、ギタリストにとって重要なレパートリーの一つとなっている。「ギターのための12の歌」は莊村清志のために編曲され77年に初演・録音、「森のなかで」を96年全曲初演を行った。レコーディング活動も積極的に行ない数々のCDを発売している。

2007年NHK教育テレビ「趣味悠々」のギター講師として再登場し、改めて日本ギター界の第一人者として強く印象づけた。08年ビルバオ交響楽団の定期演奏会に出演。同団とは《アラフエス協奏曲》を録音、09年にCDをリリース、日本ツアーのソリストとして同行した。13年12月にはCD「アルハンブラの思い出」をリリース、14年デビュー45周年を記念して東京にて大友直人指揮東京都交響楽団と協奏曲3曲を演奏した。15年10月にはイムジチ合奏団と共演、レコーディングを行い、ジュリアーニ、ヴィヴァルディのギター協奏曲を含むアルバムが16年1月にリリースされた。また16年は武満徹の没後20年に際し、莊村が委嘱、初演を数多く手がけた同氏のギター曲を各地で演奏する予定。現在、東京音楽大学客員教授。

マルク・グローウェルス (フルート)

ベルギー出身。そのエネルギッシュな演奏によって、今日最も注目を集めているフルート奏者の一人。

王立モネ劇場管、ベルギー放送フィル、ワールド・フィル等を経て、ソリストとして輝かしいキャリアを展開。パッサカリアからラヴィ・シャンカルまで、レパートリーは多ジャンルにわたる。多数の作曲家から新作を捧げられ、ピアソラからは《タンゴの歴史》の初演を任された。

録音では「The Flute Collection」シリーズ(ナクソス)をリリース中。『モーツァルト生誕250年記念全集』(プリリアント・クラシックス)や、映画『アマデウス』のサウンドトラックでも演奏を担当。

ミヤザワフルート製のゴールドフルートを使用。

莊村清志 (ギター)
& マルク・グローウェルス (フルート)
デュオリサイタル



写真提供: Sayo Ikenoto

KIYOSHI SHOMURA
& MARC GRAUWELS
DUO RECITAL

●ソル(1778~1839)／モーツァルトの「魔笛」の主題による変奏曲

ソルは、バルセロナに生まれた作曲家、ギター奏者。1815年からしばらくロンドンに滞在したソルは、そこでモーツァルトの歌劇「魔笛」上演に接したようである。その第1幕の終わりに置かれたムーア人モノスタートス他が歌う「おお、素敵な響き」のテーマを用い、序奏・主題と5つの変奏曲に仕立て上げ、人気を博した。

●グラナドス(1867~1916)／アンダルーサ

グラナドスは近代スペインを代表する作曲家で、スペインの民族的風趣に溢れたロマンティックかつ洗練された作品を数多く遺した。出世作となったのが、12曲で構成される「スペイン舞曲集」であり、その第5曲が「アンダルーサ」。アンダルシアの調べという意味であるが、グラナドスによるタイトルではない。他作曲家を含めたスペイン作品のなかでもっともよく知られている曲のひとつである。

●アルベニス(1860~1909)／グラナダ 入江のざわめき

アルベニスは、スペイン北東部カタルーニャに生まれた作曲家でピアニスト。「グラナダ」は8曲で構成された「スペイン組曲」の第1曲で、スペイン南部のアンダルシア地方の古都のこと。「セレナータ」という副題がついている。「入江のざわめき」は7曲からなる「旅の思い出」の第6曲で、港町マラガに伝わる民謡であるマラゲーニャ。ともにピアノ曲集からの編曲である。

●タルレガ(タルガ:1852~1909)／アルハンブラの想い出

スペイン東南部カステリオンに生まれた作曲家・ギター奏者タルレガは、「ギターのサラサーテ」と呼ばれたほどのヴィルトゥオーゾ。この作品はスペインのギター作品を代表する名作で、グラナダを訪れたタルレガが、13世紀に建設されたイスラム王国の宮殿、アルハンブラから受けた印象をもとに作曲したと言われている。

●トローバ(1891~1952)／組曲「スペインの城」より トリーハ トウレガーノ セゴビアの城

マドリードに生まれたトローバは、スペインの国民的オペラ「サルスエラ」で知られる作曲家である。ボンセと同様、ギターの巨人セゴビアとの出会いからギター曲を書くようになった。「スペインの城」は、スペイン国内にある(あった)城を描写した14曲の曲集で、それぞれに副題が付けられている。第6曲の今はもう廃墟になってしまった「トリーハ」には「悲歌」、第1曲「トウレガーノ」には「山唄」、そして第12曲「セゴビアの城」には「召集」と記されている。

●ロルカ(1898~1936)／「スペイン民謡集」より

ハエンのムーア娘達 カフェ・デ・チニータス 18世紀のセビリャーナス

「ジプシー歌集」で知られるのが、スペインの詩人で劇作家、ロルカである。音楽や絵画にも比類ない才能を発揮し、この「13のスペイン民謡集」を書いた。これは古いスペイン民謡からの歌曲集であり、オリジナルはピアノ伴奏であるが、著名なギター奏者イエペスによってギターに編曲された。今夜はフルートとギターによって演奏される。

●ピアソラ(1921~1992)／オブリビオン 「タンゴの歴史」より ボーデル1900 ナイトクラブ1960

ピアソラはアルゼンチン・タンゴの革命児であり、パリに留学してクラシックやジャズを採り入れた独自の音楽様式を完成させたタンゴ史上最高のバンドネオン奏者である。また作曲家としても数多くの名作を遺している。「オブリビオン」は、ベロッキオ監督映画「エンリコ4世」のために書かれた作品で「忘却」を意味する。ピアソラがフルートとギターのために書いた唯一の「タンゴの歴史」は1986年に書かれ、タンゴの発生から30年刻みにその音楽の進化、変遷を辿っていくというユニークなコンセプト、「ボーデル 1900」、「カフェ 1930」、「ナイトクラブ 1960」、「現代のコンサート」という4つの組曲で構成されている。「ボーデル」とは売春宿のこと。タンゴは1882年、ボーデルで生まれた。

●ブホール(1886~1980)／ブエノスアイレスの雲

ブホールはアルゼンチン出身のギタリスト、作曲家である。同郷のピアソラに強い影響を受け、独特なリズムと和声の高度なギター音楽を創造したことで知られている。「ブエノスアイレスの雲」は、「カンドンベロスの2つのアリア」の第1曲(第2曲は「古き良き時代のカンドンベ」)。フルート・ソロで開始され、印象的なメロディーが展開する。

●ボルヌ(1840~1920)／カルメン幻想曲

ボルヌは、ボルドー歌劇場管などでも活躍したフランスのフルーティストで、作曲家。ビゼーの歌劇「カルメン」は、サラサーテやワックスマン、フバイなどが諸々の場面を切り取って幻想曲に仕立てているが、ボルヌは「カルメン登場」、「カルメン、まだお前が好きだ」、「運命の動機」、「行ってきておくれ、セビリャの街へ」、「ハバネラ」、「ジプシーの歌」、そして「闘牛士の歌」というハイライトを用いて鮮やかなパラフレーズを構築している。

まじまじうだい(音楽評論家)